



まんまえ投壘通信

くちごもるとなりのひとを
まんまえにするのは
わたしのことば

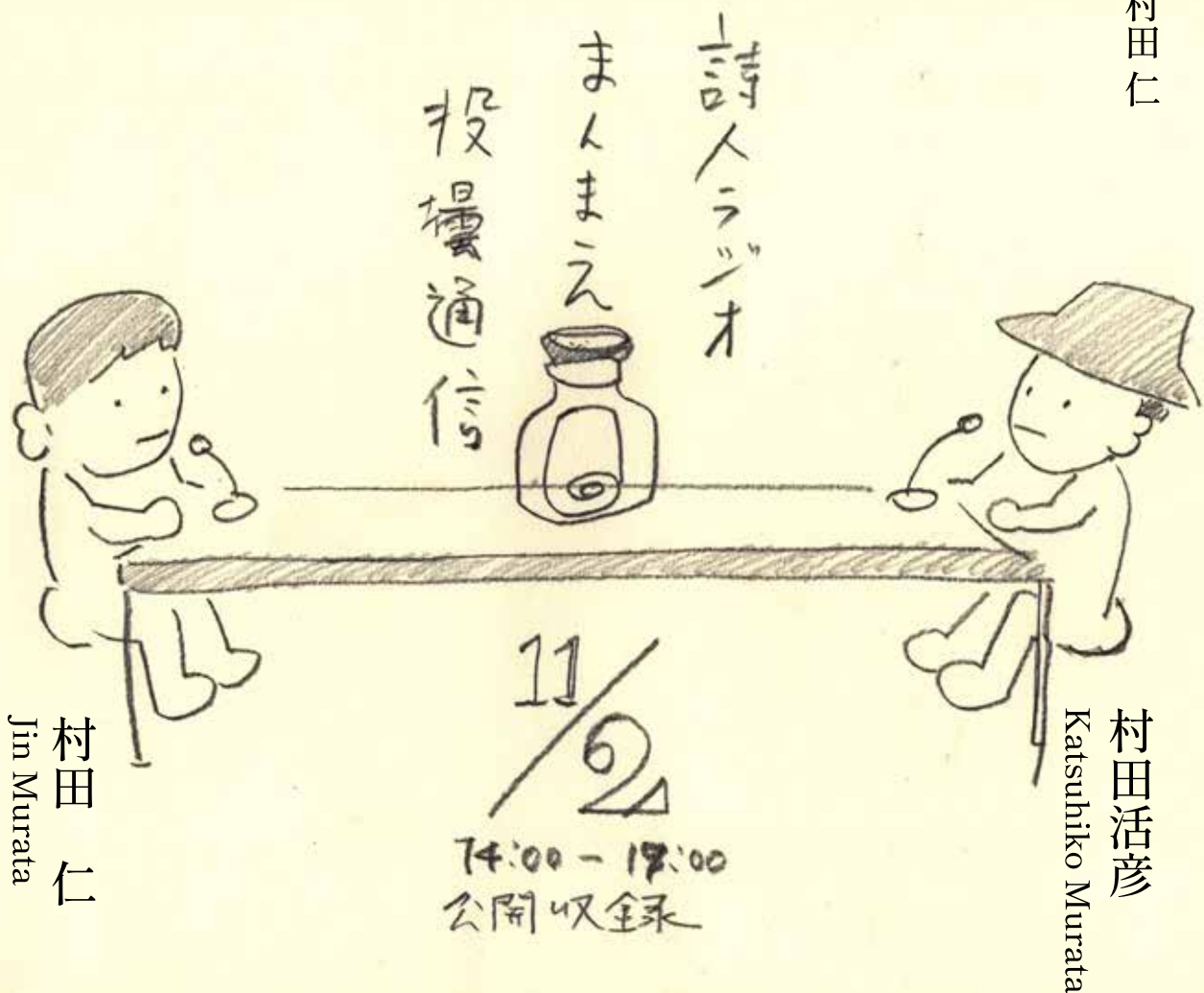
だれかのことばを
ひろった

投壘通信は
海に行けばある

流れ着くのは海のおかげ
人が人をねじる言葉の荒波から
わたしのことばを
壘は守ってくれる

そして未来を過去にするわたし
まんまえにできるのは
あなたのことば

村田 仁



村田 仁
Jin Murata

村田活彦
Katsuhiko Murata

『詩人ラジオ まんまえ投壘通信』展 2025年11/1(土)2(日)13:00-19:00 長者町コットンビル1階ギャラリー
(愛知県名古屋市中区錦2丁目11-24) 入場無料

- ・詩人 村田 仁と、詩人 村田活彦による 詩人ラジオの公開収録を、展示空間内で行います。(11/2日14:00-17:00のみ)
- ・来場者は、ギャラリー内に散らばる壘に、ご自身の言葉を書いて置いておくことができます。上記ラジオにて、その投壘通信から詩作を行います。

国際芸術祭あいち 2025 連携企画プログラム「ART FARMing 2025 声になる町」内企画 <https://artfarming2025.jimdofree.com/>

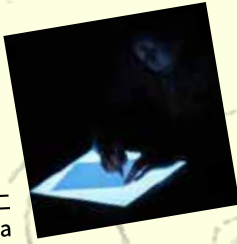


『詩人ラジオ まんまえ投壘通信』展

日時:2025年11/1(土)2(日)13:00-19:00 入場無料

会場:長者町コットンビル1階ギャラリー(愛知県名古屋市中区錦2丁目11-24)
11/2(日)14:00-17:00、村田 仁、村田活彦による「詩人ラジオ」公開収録。

企画:村田 仁(詩人) ゲスト:村田活彦(詩人)

村田 仁
Jin Murata

詩人。詩の朗読、パフォーマンス、展覧会、ワークショップと展開。2012年より、詩の教室「詩〜」を主宰。2025年現在、名古屋芸術大学デザイン領域 文芸ライティングコース准教授。2015-23年、NHK文化センター名古屋教室で詩の講座を担当。2022年自身の朗読会で発表した詩集『夜目の人』を発表。2024年から詩の朗読のポッドキャスト「アワーボエム/HOUR Poem」開始。ART FARMing 2025のタイトル「声になる町」は、村田が「大長者町まちへそ新聞」に連載していた詩から。https://jinmurata.jpn.org

壘の中に言葉を入れて、いつか誰かに読まれることを信じて海に流す「投壘通信」。「詩」のメタファーとしてよく語られます。

名古屋を拠点に詩の教室や、パフォーマンスなどで活動する詩人村田仁は、その場集まった人々で「投壘通信」を行い、誰かの言葉から詩をつくるワークショップを行っています。

今回「ART FARMing 声になる町」のなかで、この「投壘通信」をメインに置いた展覧会を開催します。言葉、詩について交わし合う空間をつくります。

東京を拠点に、ひとり出版社「やしの実ブックス」や、ポエトリーリーディング、演劇などでも活動する詩人の村田活彦さんをお呼びし、投壘通信のインスタレーション空間のなかで、二人の詩人が、詩についてを話します。それは、ラジオ放送の公開収録という体で行われます。国際芸術祭あいちのテーマとなっている詩人アドニス「灰と薔薇のあいまに」についても話します。来場者は、壘に言葉を入れていくことができます。のちに、詩へ昇華していくワークショップもラジオのなかで展開します。

村田活彦
Katsuhiko Murata
詩人。

やしの実ブックス主宰。ポエトリーリーディング、詩のワークショップ、たまに役者や考現学研究。1998年秋、東京・南青山Ojas Loungeのオープンマイクにて、ポエトリーリーディングと出会う。出版社勤務を経て、2012年からライブ活動開始。2014年、音楽とリーディングによる1stアルバム『詩人の誕生』リリース。2015年、詩の朗読日本選手権「ポエトリースラムジャパン」を立ち上げ、2019年まで優勝者を世界大会に送り込む。大会終了後も「poetry reading tokyo」として、詩を通じた国際交流を図っている。2023年より家内制手工業出版レーベル「やしの実ブックス」をスタート。『超訳! 関西弁で読むアルチュール・ランボー』など、詩集をメインに刊行中。いとうせいこう氏、ikoma氏と共に出演した渋谷のラジオ「MIDNIGHT POETS ~誰も整理してこなかったポエトリー史~」では、およそ100年に渡るポエトリーリーディングの歴史を解説。アーカイブはSpotifyで聴けます。https://note.com/poetasta

かたちのブティック
「花を贈る人」

また、会場内には詩を軸にした展示も行います。「やしの実ブックス」の詩集、書籍の紹介展示。タイトル詩「まんまえ投壘通信」も設置。そして、香川県を拠点に活動しているシチュエーションユニット「かたちのブティック」と村田仁のコラボレーション『花を贈る人』のドキュメントブックの公開初稿校正展示も。

香川県坂出市のメタボリズム名建築「坂出人工土地」にある元ブティック店舗を舞台に2016年活動を開始。土地や人から発見した物語や風景を分解、再構築し、新しいカタチに変換する小さなイノベーションの現場を構築。現在は元ブティック店舗を離れ、さまざまな場所で活動を行い、異なる分野の知識や方法論を統合することで、従来の枠組みを超えた新たなシチュエーションを作り出すことを目指している。https://katashi.site/

関連作家による詩集、ZINEの販売コーナーも設けます。

村田が同ビル5階で開いている詩の教室「詩〜」に通う

詩人たちががつくった同人詩集『しはんせいき』も取り扱います!

阿久津 啓、福富ぶぶ、八島路佳男による詩誌。
人が詩を書くとき、「労働者」や「消費者」でもなく、「創作者」になる。それだけで、もはや革命。詩を書くという作業は99%が孤独だけど、残りの1%ぐらいは賑やかにやりたい。それは革命であり発明だ!と、あとがきにあります。(村田仁の読み)

詩誌『しはんせいき』
2025年発行

国際芸術祭あいち 2025 連携企画プログラム

「ART FARMing 2025 声になる町」内企画

https://artfarming2025.jimdofree.com

まんまえ投壘通信 問い合わせ:

muratajin@gmail.com (村田)

声に
なる
町